

飼料名	反当り	反当り	反当り
	収量(貴)	蛋白質量(貴)	澱粉量(貴)
ライ麦(実)	七〇	五〇	三六
エンバク(実)	八〇	五七	四六
さつまいも	一〇〇	三三	四〇
かぶ	一〇〇	二二	三〇
レニシ	一〇〇	二二	三〇
青刈ナタネ	七五	五〇	三〇
青刈エン麦	七五	五〇	三〇
青刈トウモロコシ	一五〇	四六	五〇
青刈大豆	五〇	一〇	一〇
馬鈴薯	三〇	三〇	三〇
イモ	三〇	三〇	三〇
菊芋	三〇	三〇	三〇

普通地の飼料作物反当り生産量とその栄養生産量を飼料単位により換算表示したものである。大豆その他の穀実とその価値を比較せられた。第四表は府県に於ける集約的な飼料栽培に於ける主な飼料作物とその反当り養分量の比較表である。これによれば収獲重量と生産栄養分との間には関係がなく、特に蛋白質収量は青刈作物に著しく多く、穀実生産が案外非生産的であることを窺い知ることが出来ると思う。

飼料高の低乳価は今年も酪農界に幾多の辛酸をもたらすであろうが、今述べた自給飼料の確保対策を年頭にしっかりと樹て、微動だにしない真の酪農経営を築きまされることを祈つて置きたい。

寒さに強く、瘠地にも生育する放牧地用牧草

シープフエスク

シープフエスクはブルググラス(なながはぐさ)よりも更に北方の寒地に適する放牧地用牧草です。瘠地でもよく生育し、特に砂質土壌及び礫の多い土壌には好適の牧草です。荒蕪牧野を改良する場合には、先づこのシープフエスクの播種を試みたいものです。

今年の飼料計画立案上の着眼

今年こそ自給飼料確保の対策を一步一歩確実に築きあげよう。その対策とはこれだ。

1 山野の草生改良

山野、河川敷、堤塘、荒地、林間下地、遊んでいる所を牧草で緑化しよう!!

2 裏作の飼料化

冬の田畑を効果的に利用しよう。地方の維持と飼料の生産のために!!

3 年間緑飼の連続給与

家畜は草の化身である。春夏秋冬新鮮な緑飼をあたえ、健康と生産の基礎を作ろう!!

この目標を達成するためには、年頭に當つて自己の過去の経営を反省し、自己の酪農の立地条件を詳細に分析し、先輩の業績を見習い、指導者の声に耳を傾け、新しい技術を研究して慎重に計画を練らなければならぬ。

年間の飼料計画立案上の着眼については、酪農の形態や地域的な条件によつて異なるが、全般に通ずる事項を挙げ計画立案上の参考に供したい。

飼料計画は、家畜の生産が最終の目標であるから、飼育している家畜から考え始めなければならぬ。家畜が生命を維持し、その上人々の要求する生産をあげるためにはどのくらいの飼料をあたえなければならぬか、と云うことが根本であるからだ。

1 年間必要養分量の決定

家畜の年間必要養分量は、家畜の体重、妊娠、産乳、労働、生育の程度によつて異なり、これ等はデンマークの飼料単位法(FNE)やアメリカの総可消化養分法(TDNE)あるいは澱粉価法(SV)等によつて算出され、それが所謂、飼料標準となつてゐる。従つて酪農家の方々は一応この計算を知つて置かなければならない。自己の飼育する家畜について必要養分総

量が判つたならば、これを充足する飼料を選べ、その数量を決定するが、この際なるべく購入飼料を減じ、自給飼料を主体とする様な工夫が肝要である。又一般の傾向として澱粉価に於て与えすぎ、蛋白質に於て不足する傾きがあるのを是正することも必要なことである。

2 飼料作物の選定

飼料作物とは家畜の飼料に供する作物はすべて含まれるが、それ等の中から自己の経営に必要なものを選びださなければならぬ。

(イ) 適地適作

数多くの飼料作物にも夫々適地適作があるから、自己の立地条件に依つて選定する。しかし又適地を作つて高効率の飼料作物の導入を図る努力も必要である。

(ロ) 利用の方法

飼料作物の穫取、貯蔵など利用の方法によつて選定が異なる。放牧用か、青刈用か、あるいはエンシレイジ用等について、更に又緑肥として、土壤保全の目的を兼ねて利用も考えなければならぬ。

(ハ) 飼料作物の生育期間

一年生又は多年生をいつた生存年限について、あるいは一年生の場合には播種から収穫適期までの生育日数を集約的な輪作を行う場合のため知つて置かなければならぬ。この生育日数は地域や品種によつて異なるから注意しなければならぬ。

(ニ) 栄養価

飼料作物のもつ栄養成分は品種や栽培方法及び収穫の時期、貯蔵法によつて変化する。又含有栄養分は前述の通り飼養標準の基となるから調べて見なければならぬ。特に生産飼料としては可消化蛋白質の含量が重要であり、又可消化蛋白質の量は刈取時期によつて相当な差を生ずることを知つて置かなければならぬ。一般に開花、出穂盛期の直前が栄養価の最高の時期である場合が多い。(附) 栽培時

冬作か、夏作か、あるいは周年作かによつて年間の作物の組合せが交つて来る。又播種の時期は勿論、播種期の幅なども知つて置いた方がよい。

(イ) 反当り量

利用しようとする飼料作物の反当り量がいくらあるかは作付計画立案の上に必要な知識である。正確な作付計画には正確な反収を必要とするから、年々自己の圃場に於て必要な作物の反収を実測して置くことがよい。

(ロ) その他の事項として、草の姿即ち上繁、下繁、あるいは匍匐などについて、あるいは刈取回数、利用年限、輪作の可否など一応の知識は必要である。

以上飼料作物の選定上必要な性格を知るため末尾に主要飼料作物についてその特性の概要及び栽培基準表を表示したから参照せられたい。

3 作付計画の樹立

以上より必要養分量が判り、その必要養分量を充たすにたる飼料作物の種類と作付必要量が判れば、あとはこれを組合せて年間連続的に青刈を給飼出来る、冬期の貯蔵飼料の生産も円滑に遂行出来る様に播種収穫の日を決定し、且つ最高収量を得るための諸計画を併せて立てればよい。これに伴つて当然農場副産物や残滓物などの利用量と栄養価、更に又飼料価値から判断して不足する分を濃厚飼料でいくらか補うかの検討をも併せて行つておく。

4 山野の草生改良の計画

これも漫然とただやろうと考えるだけでは実現しない。はつきりとした計画を樹てたい。山野の草生改良は一年位では完成しないから長期に亘る。例えば草地改良五カ年計画と云う様に、一計画を樹てた方がよい。

最後に計画と共に準備しなければならぬものは、飼料作物の種子である。飼料作物生産の根元はその種子であり、播種に必要な数量を決定したら早目にとりそろえて置いた方がよい。良い系統をえらび、良い種子を準備し、それ等が立派な計画のもとに播種されれば、恐らく今年の飼料生産は順調に進捗し、貴方の酪農経営安定の基盤となつてくれるものと信ずる。